
クリスマスプレゼント

ピンプキン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスプレゼント

【Nコード】

N5753P

【作者名】

ピンプキン

【あらすじ】

クリスマスのちょっとした話

パパとママと楽しいクリスマス。

ぼくは、クリスマスが大好きだった。

クリスマスにはいつも、手紙に書いた通りのプレゼントをサンタさんが届けてくれる。

今年もクリスマスが近づいてきた。

でも、今年はいつもと違う、

パパがいないから。

去年のクリスマスが終わってからすぐ、パパは姿を消した。

ママは泣きながら言っていた。

「パパはね、いい人だったから…」

「パパは悪くない…パパは何にも…」

ぼくには、ママが言っていることが理解する事が出来なかった。

ただ、パパは

「ごめんな」

その言葉だけを残し、ぼくの前からいなくなった。

クリスマスの日

いつもとは違う、料理は鶏肉もピザもなく、ケーキもぼくとママでショートケーキがふたつだけ。

本当は、まあいおつきなケーキが食べたかったけど、ママが料理を置いたびに「ごめんね、ごめんね」って、泣きながら何度も言うから、

ぼくは、何にも言えなくなっちゃうんだ。

今年、ぼくはサンタさんをお願いごとをふたつした。

一つは、いつもどおり靴下の中に手紙を入れて、

もう一つは、毎日サンタさんに届くように空に願った。

もう一つの方は、ママのために。

ママの悲しそうな姿を見たくないから、3人でクリスマスをで笑って過ごしたかったから。

そして、ぼくは、サンタさんにもう一度だけお願いして、眠りについた。

翌朝、目が覚めると、まっすぐに靴下へと走った。

中を見ると、入っていたのは、ぼくがサンタさんをお願いしたのとは全然違う、よく編み込まれた、赤色のマフラーだった。

と、中にはもうひとつ、「ごめんね」と書かれた、カードだった。

ぼくには分かってしまったんだ、サンタさんの正体も赤色のマフラーのあったかさも。

でも、

でもね、

やっぱり、サンタさんはいるんだ。

だって、

「ピンポーン」

と、雪のよく降る朝と共にやって来たのは、ぼくが一番に望んだ出来事だったから。

来年からはまた、笑ってクリスマスを過ごせるから。

ありがとう。

サンタさん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5753p/>

クリスマスプレゼント

2010年12月31日07時32分発行